

ニ ュ ー ス

論文集 “Parametron”

パラメトロン研究所は parametron に関する国内の研究を紹介するために、このたび欧文の parametron に関する論文集 “Parametron” を出版して、内外の主な学会、図書館、研究所に寄贈した。

事務データ処理の共通語 COBOL

COBOL (Common Business Oriented Language) と呼ばれる事務データ処理プログラムの共通語がアメリカで完成に近づきつつある。これは政府及び工業界での計算機ユーザからの有志がメーカーと一緒に作っている Conference on Data System Language (1959年5月に第1回の会合を開いた) の一つの小委員会の報告として纏められたものである。この小委員会は NBS の J.E. Wegstein を委員長とし、政府機関およびメーカー7社からの技術者を委員として、昨年の6月以来各種の計算機に広く共通に使用できる事務データ処理用の言葉を作ってきた。報告は現在親委員会で審議中である。

アメリカ下院で機械翻訳の公聴会

アメリカ下院の Science and Astronautics 委員会は5月11~16日の4日に亘って機械翻訳について政府、学界、民間の代表を集めて公聴会を行ない、6月

下旬にその報告書を発表した。

それによると、機械翻訳は外国の情報や科学を知る上に重要な役割を果たすので、今後も一層の努力がいる。現在国内各所で行なわれている研究はいずれも大切なものであるが、一方これらの諸研究を総合して応用を図る時期にもなって来た。National Science Foundation は指導権を持っているものの十分ではない。もっと調整、統一を図るべきだ。

Dr. Dostert の提案した National Academy of Language Science は劃期的なものである。(機械言語学部、教育言語学部、文化言語学部、心理言語学部、辞書学部から成る研究機関) これを実現して、その一つの部は機械翻訳に没頭させるべきだ。

研究では NBS の構文的分析に関するものが長期的計画であるが、最善のものであるとすることにほとんど異論がなかった。

海外に支所を持つ国立のセンターを設けて、総合的調整機能を持たせるべきで、一方翻訳の実務を行なう国立機関も設けて、そこには翻訳専用の機械を据えることが望ましい。

現在の機械翻訳技術でできる論文は、これに手を加えてもとにかく生産をしないと、評価することもできないし、将来への資料を得るにも不便であると、この報告書は結んでいる。

月 例 講 演 会

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 日 時 | 12月8日(木) 午後1時30分 |
| 場 所 | 産経会館(604号室)(地下鉄=大手町下車) |
| 議 題 | (電気通信学会オートマトン委員会と共催) |
| 1. | 音韻識別音声伝送方式のモデル.....中田 和男君(電波研) |
| 2. | パタン認識について.....飯島 泰蔵君(電 試) |